



2025年1月16日
東日本旅客鉄道株式会社
大宮支社

浦和が誇る「浦和絵描き」の作品を体感しませんか？ 『浦和絵描き』シールアートイベントを浦和駅で開催します

JR東日本大宮支社は、埼玉大学と連携して沿線地域の発展に貢献することを目的とした課題解決型プログラムに取り組んでいます。この一環で、浦和には「浦和絵描き」と呼ばれる画家が多く存在していることを広く知っていただくため、うらわ美術館ご協力のもと、浦和駅でシールアートイベントを開催します。

関東大震災をきっかけに多くの芸術家が浦和に移り住み、集った画家は「浦和絵描き」と呼ばれていました。代表的な「浦和絵描き」である高田誠氏の作品「浦和田島ヶ原のさくら草」を、丸型シールを貼付して点描風に再現できるイベントを開催します。また、同じく代表的な「浦和絵描き」の小松崎邦雄氏と渡邊武夫氏の紹介も行います。

ぜひこの機会に浦和が誇る「浦和絵描き」の作品を自らの手で再現してお楽しみください。

「浦和絵描きシールアートイベント」実施概要

1 日時

2025年1月23日(木)～30日(木) 9時30分～17時00分

※「浦和絵描き」の紹介は終日行います。

※初日は15時頃より開始、最終日は12時頃終了予定です。

2 開催箇所

浦和駅東西連絡通路

3 内容

- ・高田誠氏作「浦和田島ヶ原のさくら草」のシールアートイベント
下絵が入ったポスターに、備え付けの丸型シール（カラー）を貼っていただき、皆さまで高田誠氏作「浦和田島ヶ原のさくら草」を再現していただきます。参加は無料です。
- ・「浦和絵描き」高田誠氏・小松崎邦雄氏・渡邊武夫氏の紹介
- ・イベントに関するアンケート調査



高田誠
「浦和田島ヶ原のさくら草」
うらわ美術館蔵

【参考】「浦和絵描き」について

浦和は戦前から「鎌倉文士に浦和画家（浦和絵描き）」といわれ、画家の多い町として知られていました。はじまりは、関東大震災に罹災した東京の画家が、美術のメッカである上野に近く、台地で地盤が強固であり、閑静な浦和に移住したと考えられています。また、浦和は昔から教育機関が多く画家が集いやすい土壌であったことや、程よく自然があり洋風建築物が多いこと、鉄道による上野や上信越へのアクセスが良いことも浦和で活動する画家が増えた要因として挙げられています。いつしか浦和で活動する画家は「浦和画家（浦和絵描き）」と呼ばれるようになりました。 出典：水野 隆『埼玉の画家たち』さきたま出版会（2000年7月）

※催事、イベント内容は予告なく中止、もしくは変更となる場合があります。

※本リリースの画像はすべてイメージです。